

# 平成29年度 授業改善プラン

国語	1
社会	1～2
数学	2
理科	3
音楽	3～4
美術	4～5
保健体育	5～6
技術・家庭	7～8
英語	8～9

文京区立第三中学校

国語科 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	<p>①集中して話を聞くことができず、指示を正確に聞けていない。</p> <p>②文章を書く際、既習漢字を覚えていないので書けない。</p>	<p>①話す前に必ず注目をさせ、教室が静かになってから指示を細かく出す。また、発問を分かりやすくし、課題に取り組みやすい状態にする。</p> <p>②作文の時間を多くし、文章能力を高める授業を展開する。また、既習漢字を書けていない場合は、その場で指導する。</p>	<p>①集中させることで、生徒同士の話し合いの場を多く設定する。そしてお互いに新たな考え方を発見し、他の生徒の意見を受容して、考えを深めさせる。</p> <p>②限られた範囲の漢字小テストの他に、小学校で習った漢字テストを実施し、反復練習をさせる。</p>
2 学 年	<p>①個人の集中力は高まってきたが、積極的な発言をする生徒が減った。</p> <p>②スピーチ力は高まってきたが、発表原稿を自分なりに工夫して、文章を構成する力が全体的に低い。</p>	<p>①分かりやすい発問を心掛け、全員が答えられるようにし、グループ活動も取り入れ、少人数の中で積極的な発言をするよう指導する。</p> <p>②自分の主張、根拠の提示方法を繰り返し指導するとともに、一文を長くせず、分かりやすい文を書けるように作文の練習を行う。</p>	<p>①グループ活動で司会、記録、発表者を決め、全員がそれぞれの役割を行うように小グループの中で順番を決める。</p> <p>②根拠を書くことが苦手な生徒がいるので、自分の主張ポイントを考えさせる。</p>
3 学 年	<p>①集中して課題に取り組む生徒が多いが、発表する時は決まった生徒が発表をする。</p> <p>②グループ活動は積極的に発言し意見を交わしているが、話し合いに取り組む集中力が持たない。</p> <p>③漢字や文法の基礎的・基本的な問題を解く力や、受験に堪える力をつけるよう、日常的に指導する必要がある。</p>	<p>①積極性を高めるため、グループ活動を取り入れ、全員が司会や発表者を担当するよう順番を決め、発言の場を設定する。</p> <p>②話し合う課題を、各自の考えを深められるように設定し、各課題ごとに小問を提示する。</p> <p>③漢字小テストを、年間を通じて行う。また、入試漢字に早くから取り組み反復練習をさせ受験に対する自信をつけさせる。</p>	<p>①発表する時は、前に出て発表させ、緊張感をなくさせる。</p> <p>②生徒自身がどのような課題について話し合いたいかを確認し、生徒が進んで課題に取り組めるような話し合いの場を設定する。</p> <p>③漢字検定3級程度の読み書きや熟字訓を指導し、漢字コンテストを実施する。また、漢字の成り立ちから説明し、ただ覚えるだけの指導はしない。</p>

社会科 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	<p>①基本的な授業の受け方、ノートを取り方を身につけている生徒が多い。</p> <p>②社会科への関心をさらに高め、自ら学習する態度を養うことが大切である。</p>	<p>①基礎事項を徹底する。電子黒板が生かせるよう、学習を深める方法を指導する。</p> <p>②小テストを実施し、知識の定着を図る。</p>	<p>①興味を持った内容をより深く調べさせ、基礎・基本的な事項を確認する。</p> <p>②各章末の学習課題から、「調べる」「まとめる」「表現する」力をつける。</p>

2 学 年	①授業の受け方、ノートを取り方が定着し、前向きに学習に取り組む生徒が増加した。 ②資料活用の技能を高め、表現力を高める必要がある。	①既習学習内容を繰り返し、確認させながら授業を進める。 ②小テストを実施し、知識や表現力の定着を図る。	①都の学力調査の結果を活用し、「思考する」「判断する」「表現する」力をつける。 ②教科書等の資料から既習学習内容の基礎・基本的な事項と表現力を確認する。
3 学 年	①授業に臨む心構えや態度が積極的で、前向きな生徒が多い。 ②社会的な思考力や判断力を養い、表現力を高める必要がある。	①公民的分野との関連で、1・2年次に学習した地理的分野や歴史的分野の基礎・基本的な事項を復習する。 ②社会的な事象(時事問題)から、教科書で学習したことを応用し、思考力や判断力を高める。	①具体的な事例を挙げたり、アクティブラーニングを行うことで「思考する」「判断する」「表現する」力をつける。 ②夏季休業中に地理的分野や歴史的分野の基礎・基本的な事項をマスターする。

### 数学科 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算力は身につけているが、ケアレスミスが多い。</li> <li>・身につけた知識や技能を応用問題で活用する力が欠けている。</li> <li>・自分の考えを説明し、筋道を立て説明する力に欠けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導補助員（T2）と連携し、個別指導にあたる機会を増やす。</li> <li>・デジタル教科書、電子黒板を活用し、視覚に訴える授業を実施して、興味・関心を高める。</li> <li>・授業内で生徒が発表や話し合いの会を増やし、いろいろな考えに触れ、思考力を伸ばす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を明らかにし、筋道をたて体系的に考えられる発問をする。</li> <li>・発展コースでは、応用プリントを活用する。都立の過去問題にも挑戦させる。</li> </ul>
2 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な計算力は身につけているが、ケアレスミスが多い。</li> <li>・身につけた知識や技能を応用問題で活用する力に欠けている。</li> <li>・自分の考えを説明したり、筋道を立てて説明したりする力に欠けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導補助員（T2）と連携し、個別指導にあたる機会を増やす。</li> <li>・デジタル教科書、電子黒板を活用し、視覚に訴える授業を実施して、興味・関心を高める。</li> <li>・授業内で生徒が発表できる機会を増やし、思考力を伸ばしていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠を明らかにし、筋道をたて体系的に考えられる発問をする。</li> <li>・発展コースでは、応用プリントを活用する。都立の過去問題にも挑戦させる。</li> </ul>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な計算力は身につけている。ミスの多い生徒がきたい。</li> <li>・発展的な問題や文章問題等に取り組む量が不足している。</li> <li>・自分の考えを発表し、筋道を立て説明する力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中はスモールステップの反復練習形式で計算力アップをめざす。</li> <li>・單元ごとに発展的な小テストを実施し、応用問題の理解を深める。</li> <li>・授業内において生徒が発表できる機会を増やし、いろいろな考える力を身につけられる手法をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査の前に補習を行う。</li> <li>・理解度を高められる発問を増やす。</li> <li>・発展コースでは、都立の応用問題にも挑戦させる。</li> <li>・発展コースの学力差が激しいので個々に応じたプリントも用意する。</li> </ul>

理科 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	①自然や科学に対する関心・意欲は高いが、基本的な実験器具の操作ができない生徒がいる。 ②実験や観察によく取り組んでいるが、取り組み始めるまでに時間がかかったり、対象でないものに気を引かれてしまう生徒もいる。	①実技テストを実施し、技能の基礎基本の定着をはかる。 ②実験の目的を明確にし、作業内容を理解させる。また、実験・観察が始まったら机間巡視をし、声掛けをする。	①復習の時間を確保し、全員が器具を扱えるようにする。 ②実験を行う際は、予想をたてて臨み、結果から理解できたことを班で相談し発表する。
2 学 年	①自然や科学に対する関心・意欲が高いが、理科に苦手意識を持っている生徒もいる。 ②実験や観察によく取り組んでいるが、他人任せにし、話し合いに参加できない生徒もいる。	①小テストを実施し、復習にも取り組みながら授業を進めていく。 ②導入の段階で実験や観察の目当てを明確にし、目的意識をもって活動に取り組ませる。班での話し合いが活発化するように声掛けをする。	①補習や追試を実施し、知識の定着を図る。 ②実験を行う際は、必ずレポートを書き、文章にして、自分の考えを発表する。
3 学 年	①意欲的に実験や観察に取り組んでいて、基礎的な知識は定着しているが、発展的な問題に対し、苦手意識をもっている生徒がいる。 ②実験や観察によく取り組み、実験データをもとに考察し、結果を言葉や文章で表現することを苦手とする生徒がいる。	①暗記だけでなく、条件を変えた場合の変化を考えさせ、科学的な思考力を身に付けさせる。 ②実験・観察は目的意識を持たせて実施し、レポートを必ず書き、結果をわかりやすくまとめる。	①基礎事項は、小テストを実施する。発展的な問題に取り組ませる。 ②実験・観察の結果から言えることを明確にし、考察に取り組ませ、意見を共有する。

音楽科 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	①大きな口を開けて、腹筋を使って歌う生徒が少ない。 ②ハーモニーをきれいに表現しているが、全体のハーモニーを聴く習慣がないので、美しいハーモニー作りが必要である。 ③合唱コンクール曲の歌詞の意味を考え、表現して歌う力を養う必要がある。	①発声の練習1「あくびの歌」で口を開けさせる。2「犬のお腹」で腹筋を使わせる。 ②I度のハーモニーとカデンツを実施し、全体を聴き、自分の声を調整する力をつける。 ③歌詞の意味を考え、その気持ちを効果的に表現できる方法を指導して、感動的な曲作りを目指す。	①「あくびの歌」では大きな口を開けた生徒を指して、ポイント制にする。「犬のお腹」も同様に実施する。 ②I度のハーモニーとカデンツの点数を付け、黒板の端に貼り、他クラスの評価を意識させる。 ③歌詞を書いた模造紙を使い、はっきり発音する言葉や強弱などを指導者が記入して、明確な課題意識を持って取り組む。

2 学 年	<p>①大きな口を開けて、腹筋を使って歌う生徒が増えてきた。</p> <p>②ハーモニーをきれいに表現し、全体のハーモニーを聴く習慣がついた。今後、更に美しいハーモニー作りが必要である。</p> <p>③合唱コンクール曲の歌詞の意味を考え、表現して歌うようになったが、更に表現力を養う必要がある。</p>	<p>①発声の練習1「あくびの歌」で口を開けさせる。「犬のお腹」で腹筋を使わせる。</p> <p>②I度のハーモニーとカデンツを実施し、全体を聴き自分の声を調整する力をつける。</p> <p>③歌詞の意味を考え、気持ちを効果的に表現する方法を教えて、感動的な曲作りを目指す。</p>	<p>①「あくびの歌」では大きな口を開けた生徒を指して、ポイント制にする。「犬のお腹」も同様に行う。</p> <p>②I度のハーモニーとカデンツの点数を付け、黒板の端に貼り、他クラスの評価を意識させる。</p> <p>③歌詞を書いた模造紙を使い、はっきり発音する言葉や強弱などを指導者が記入して、明確な課題意識を持って取り組む。</p>
3 学 年	<p>①大きな口を開けて、腹筋を使って歌う生徒が増えてきた。</p> <p>②ハーモニーをきれいに表現し、全体のハーモニーを聴く習慣がついてきた。今後、更に美しいハーモニー作りが必要である。</p> <p>③合唱コンクール曲の歌詞の意味を考え、表現して歌うようになったが、更に表現力を養う必要がある。</p>	<p>①発声の練習1「あくびの歌」で口を開けさせる。「犬のお腹」で腹筋を使わせる。</p> <p>②I度のハーモニーとカデンツを実施し、全体を聴き自分の声を調整する力をつける。</p> <p>③歌詞の意味を考え、気持ちを効果的に表現する方法を教えることにより、より感動的な曲作りを目指す。</p>	<p>①「あくびの歌」では大きな口を開けた生徒を指して、ポイント制にする。「犬のお腹」も同様に行う。</p> <p>②I度のハーモニーとカデンツの点数を付け、黒板の端に貼り、他クラスの評価を意識させる。</p> <p>③歌詞を書いた模造紙を使い、はっきり発音する言葉や強弱などを指導者が記入して、明確な課題意識を持って取り組む。</p>

### 美術科 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	<p>1学期は、授業規律や美術の基礎基本と個人個人の能を見極め、対象をしっかりと見て描いたりつくったりすることに重点を置き、表現活動の楽しさを味わわせる。</p> <p>2学期以降は、言語活動を取り入れた鑑賞授業やデザイン、絵画、彫刻の基礎的内容を学習する。</p>	<p>毎時間始めの10分間、自分の手をよく見て鉛筆デッサンに取り組み、対象をよく見る経験をさせる。説明を理解しやすく、また、見て気付くことができるように、書画カメラや電子黒板を使用し、参考作品を多く紹介して指導する。</p>	<p>毎時間提出する鉛筆デッサンは、一人一人にコメントを入れ、次回に生かせるようにする。</p> <p>制作状況を毎時間、点数化し、生徒にフィードバックする。</p>

2 学 年	日本の魅力を、様々な表現方法や素材を使って表現することに重点をおく。また、課題設定の意図を理解し、発想力を高める。 鑑賞分野は、有名作家の良さを再発見し深めて、作品や作家を鑑賞する。3年次に継続して制作する課題は根気強く制作させる。	日本の魅力的な表現方法や作家の制作意図を、映像や写真を見て、説明を聞き学習し、プリントワークで学習したことを定着させる。説明を理解しやすく、また、見て気付くことができるように、書画カメラや電子黒板を使用し参考作品を多く見せ指導する。授業規律を定着させ、3年進級時へつなげていく。	新しい題材に取り組み、根気強く、意欲的に制作させる。自分の作品の制作意図を発表させ、友達からコメントをもらい、制作を深める。 制作状況を毎時点数化し、生徒にフィードバックする。
3 学 年	前半、日本文化の良さを学習し伝統美に触れ、実生活にある、日本文化を味わえる力をつける。後半から現代美術の作品の良さに触れ、作家の制作意図を理解し、自分の考えや思いを様々な形態で表現することの意義や良さを学習する。	日本画の画材を使用し、体験したことのない描画剤を使い表現方法のバリエーションを増やす。また、実生活に生かし、使用できる作品を制作し意欲を歓喜させる。説明を理解しやすく、また、見て気付くことができるように、書画カメラや電子黒板を使用する。	修学旅行で見た日本の美術に触れ、その体験を生かした表現を作品制作に生かす。制作状況を毎時点数化し、生徒にフィードバックする。

### 保健体育科(男子) 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動能力の個人差が大きい。</li> <li>・運動に対して積極的でない生徒もいる。</li> <li>・生徒同士の声の掛け合いは盛んだが、気付けない生徒もいて、結果的に全体がまとまらないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各單元ごとに補強運動を取り入れる。</li> <li>・運動に対し関心を持つような声かけを継続して行う。</li> <li>・先のことを予測した行動をすよう、繰り返し声かけを行う。</li> <li>・ワークシートを活用し、課題発見力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導を適宜取り入れ、全体のレベルアップを図る。</li> <li>・グループ学習を取り入れ、リーダーの育成を図る。</li> <li>・保健分野にも関心を持たせ、自身の体のことについても理解させる。</li> <li>・持久力を高める運動を取り入れる。</li> </ul>
2 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に基礎体力が低い。</li> <li>・全体指導だけでは指示が入りにくい。</li> <li>・思考力を向上させる取り組みが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各單元ごとに補強運動を取り入れる。</li> <li>・生徒同士で声かけを行えるような指導を行う。</li> <li>・ワークシートを活用し、課題発見力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導を適宜取り入れ、全体のレベルアップを図る。</li> <li>・グループ学習を取り入れ、リーダーの育成を図る。</li> <li>・ペア学習において、課題発見力を育成し、言語活動も充実させる。</li> </ul>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動能力の個人差が大きい。</li> <li>・全体の意欲が高いため、体を動かす時間を多く確保する必要がある。</li> <li>・リーダーシップをとれる生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各單元ごとに補強運動を取り入れる。</li> <li>・ワークシートを活用し、課題発見力を育成する。</li> <li>・競技ごとの基礎・基本の習熟の段階で、練習パターンを覚えさせ、効率よく技能を高めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導を適宜取り入れ、全体のレベルアップを図る。</li> <li>・競技ルールと審判法を習得させ、生徒だけで競技を成立させられるようにする。</li> <li>・ペア学習において、課題発見力を育成し、言語活動も充実させる。</li> </ul>

保健体育科(女子) 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に基礎体力が低く、運動経験に個人差がある。</li> <li>・全体的に柔軟性や持久力が不足している生徒が多く、改善させる取り組みが課題である。</li> <li>・リズムカルに体を動かすなど、のリズム運動に課題がある生徒がいる。</li> <li>・種目によって、苦手意識を持つ生徒もいて、意欲に差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力の向上や運動に対する興味・関心を高め、けがの防止や自分の体力を自覚させる。</li> <li>・各種目での補助的・補強的な運動を取り入れ、体力の向上を目指す。</li> <li>・種目による苦手意識の解消を図る。</li> <li>・ワークシートを活用し、自らの課題を見つけ、実技に取り組ませる。</li> <li>・リズム運動の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手な種目のある生徒に対し、個別アドバイスや声かけをする。</li> <li>・体力向上と、柔軟性や持久力の向上も目指す。</li> <li>・ストレッチの実施。</li> <li>・持久力を高める運動の実施。</li> <li>・相対評価やグループ活動による意見交換、作戦会議等の言語活動の実施。</li> <li>・体づくり運動を定期的に取り入れ、体育理論との関連を図る。</li> </ul>
2 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力に個人差があり、授業の展開方法に工夫が必要である。</li> <li>・柔軟性や持久力が不足している生徒が多く、改善させる取り組みが課題である。</li> <li>・リズムカルに体を動かすなど、リズム運動に問題がある生徒がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力の向上や運動に対する興味・関心を高め、けがの防止や自分の体力を自覚させる。</li> <li>・種目別での補助的・補強的な運動を取り入れ、体力の向上を目指す。</li> <li>・個人指導を取り入れ、自分自身の動きを客観的に見られるように、映像機器を活用する。</li> <li>・リズム運動の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の向上とともに、柔軟性と持久力の向上を目指す。</li> <li>・毎時間、個人の目標を持たせ、苦手種目の克服を目指す。</li> <li>・ストレッチの実施。</li> <li>・持久力を高める運動の実施。</li> <li>・グループ活動で、意見交換や作戦会議等の言語活動の実施。</li> <li>・保健分野や体育理論との関連を図り、怪我の防止や自己にあった運動方法を理解させる。</li> </ul>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極性があり、運動能力的にもレベルの高い生徒と、そうでない生徒の二極化が見られるので、体力的に低い生徒のレベルアップを目指す。</li> <li>・柔軟性やリズムカルに体を動かす運動能力に問題がある生徒がいる。</li> <li>・種目によって取り組みに差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎体力の向上や運動に対する興味・関心を高め、けがの防止や自分の体力を自覚させる。</li> <li>・ワークシートを活用し、グループ活動などを多く取り入れ、自己の課題解決や、練習方法を考える時間を設ける。</li> <li>・種目別で、補助的・補強的な運動を取り入れ、体力の向上を目指す。</li> <li>・リズム運動の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力の向上とともに、柔軟性と持久力の向上を目指す。</li> <li>・単元終了時の目標を掲げ、毎時間の達成度について、自己評価を行い、苦手種目の克服を目指す。</li> <li>・体づくり運動やストレッチ運動を実施し、けがの防止について理解させる。</li> <li>・持久力を高める運動の実施。</li> <li>・グループ活動での意見交換や作戦会議等の言語活動の実施。</li> <li>・達成感のある全員参加の授業を行う。</li> </ul>

## 技術科 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	<p>実習・作業に興味を持ち、集中して取り組むことができる生徒がいる。しかし、作業内容や工具類の扱い方を理解できない生徒もいる。また、ものづくり体験不足の生徒もいる。</p>	<p>説明を集中して聞き、ものづくりの基礎的な技能を向上させるため、プリントを工夫し、画像・動画を準備し、基礎的な技能を理解させ、プリントを確認し、PCも活用して、作業のコツを感じとらせる。</p>	<p>補充・発展；夏休みや放課後等を活用し作業時間を確保する。</p> <p>見本や動画・画像を充実させて、プリントの確認や振り返りをして、各加工の作業内容を考え、工夫するように助言する。</p>
2 学 年	<p>授業や製作活動の目的や作業内容が明確なときは、意欲的に取り組める生徒がいる。しかし、学んだ学習内容を応用する力や作業の集中力、継続させる力に個人差が表れ、進行状況に違いがでる。</p>	<p>実演や動画・写真映像などを充実させ、振り返りができる環境を整え、作業手順を理解させ、諸注意を徹底し、工夫する力と効率の良い作業を身につけさせる。</p>	<p>補充・発展；夏休み、昼休み、放課後等を活用し作業時間を確保する。</p> <p>見本や写真・動画を充実させて、作業内容を考え、工夫するように指導助言する。</p>
3 学 年	<p>意欲的に取り組んでいるが、プリントなどに記載されている諸注意を確認しないで、感覚で作業してしまい、作業効率の悪い生徒がいるので、進行や出来具合に個人差が表れる。</p>	<p>プリント・画像・動画の活用能力向上指導と作業ポイントの助言や実演をみせることに努め、効率の良い作業と工具類の正しい使い方を習得させ、作業内容の充実を目指す。</p>	<p>補充・発展；夏休みや放課後等を活用し作業時間を確保する。</p> <p>製作実演や映像・画像を参考に作業内容を考え、PCも活用し、作業を工夫するように助言する。</p>

## 家庭科 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(家庭生活) 学習プリントを活用し、自分の成長を振り返り、たくさんの人々に支えられてきたことに気付かせる。</li> <li>・(被服分野) 衣服の役割、活用方法、手入れの仕方を動画や学習プリントで学ぶ。</li> <li>・(被服分野) 「基礎縫いブックカバー」の製作を通し、家庭生活の基礎的な知識、技術を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手縫い、ミシン縫いが苦手な生徒が多く、小学校の指導内容から立ち返り指導をする。</li> <li>・授業初回到授業内でのルールや評価のつけかたなどを説明し、落ち着いて授業に取り組ませる。</li> <li>・被服実習で、予定進度に到達していない生徒がいるので個別指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業時間確保のため、昼休みも活用する。</li> </ul>



2 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(食生活) 自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康によい食生活について、学習プリントや動画で学ぶ。</li> <li>・(食生活) 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について食品カードや学習プリントで学ぶ。</li> <li>・(被服分野)「リバーシブルランチバック」の製作を通し、家庭生活においても工夫して衣生活ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活は中学生にとって関心が高い領域であり、意欲的に学ぶ姿勢が見られた。ただ、調理実習での技能は家庭での取り組みによって個人差が見られたので、苦手な生徒には頻繁に声掛けと指導を行った。</li> <li>・被服実習において、集中力・理解力・技術力に差があるので、能力が低い生徒には個別に指導をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理技能において個人差が見られるので、調理実習を増やし、技能の向上に努める。</li> <li>・栄養素について、詳しく学び、知識を生かし自らの食生活の見直しをさせる。また、バランスの良い献立を立てられるよう実践を通して学ばせる。</li> <li>・被服実習において、集中力・理解力の低い生徒は、図解を読み取ることが不足しているので、他の教科とも連携を取り指導する。</li> </ul>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(家庭生活) 幼児の発達と生活の特徴を知り、子供が育つ環境は、家族の役割が重要なので、学習プリントや実物大の新生児人形と資料動画で学ぶ。</li> <li>・(家庭生活) 幼児の観察や遊び道具の製作活動を通し、幼児の遊びの意義について理解する。</li> <li>・卒業後、よき家庭人、責任ある社会の構成員として、どのような行動を心がけるかを考え、中学校の集大成にふさわしいレポートを作成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生は身近に幼児と関わりを持つことは難しく、実物大の新生児の人形や幼児の様子わかる動画を使い、子供の特徴や接し方を学び、将来の子育てについて考えるよう指導した。</li> <li>・幼児の遊び道具の製作では「絵本づくり」を課題とし、絵本の種類について、実物を参考にして詳しく解説し、幼児に適した絵本を制作中である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業時間確保のため、夏休みや昼休みを活用する。</li> </ul>

### 英語科 授業改善プラン

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充・発展指導計画
1 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>①英語学習の入門期にあたり、基礎基本の定着を図る必要がある。</li> <li>②個々の生徒により習熟の程度に差が見られる。</li> <li>③「表現の能力」を定着させる必要がある。</li> <li>④言語活動の力を養う必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①繰り返し学習、音声から入る指導を工夫し、基礎基本の定着を図る。</li> <li>②習熟度の差に対応できるように、様々な言語活動の工夫をする。</li> <li>③ジェスチャーをつけての音読・スキットやスピーチの発表を行い、積極的に言語活動を行うよう指導する。</li> <li>④定期的に、音読テストを実施して、正しい発音で読めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①少人数指導の中で、きめ細かい指導を工夫する。</li> <li>②スローラーナーには補習や放課後指導を行い、継続的に苦手意識を克服できるように努める。</li> <li>③発表等を通し、人前で自己紹介や自分の気持ちを伝達できるようなプレゼンテーション能力を養わせる。</li> </ul>

2 学 年	<p>①「表現の能力」について指導方法の工夫が必要である。</p> <p>②「理解の能力」について基本的、基礎的な力を十分に身につけ、応用力も養う必要がある。</p> <p>③「言語についての知識・理解」を定着させる必要がある。</p> <p>④個々の生徒の習熟程度にかなり差がある。</p>	<p>①音読の徹底、インタビューテストにより表現力を高める。</p> <p>②リーディング力、リスニング力を高める指導を行う。(教科書、副教材を活用する)</p> <p>③適宜、小テストを実施し、知識を定着させる。(スペリングコンテスト、単元テストなど)</p> <p>④定期的に、音読テストを実施し、正しい発音で読めるようにする。</p>	<p>①絵日記等の掲示作品を作成して、「表現の能力」の育成を図る。</p> <p>②適宜小テストを実施し、基礎学力の定着と個々の能力の伸長を図る。</p> <p>③小テストで合格点に達しない生徒の補充テストを実施する。</p> <p>④少人数指導の中で、習熟度に応じた指導方法を工夫する。</p>
3 学 年	<p>①4つの観点(関心・理解・言語・表現)において、基礎・基本の定着を図る必要がある。</p> <p>②理解・言語についての力を定着させる必要がある。</p> <p>③科目に対する関心・意欲を高め、表現力の幅を広げる指導をする必要がある。</p> <p>④言語活動の力を養う必要がある。</p>	<p>①教科書に基づき、指導をする。内容を問う問題に慣れ、疑問詞を含む英文に主語・動詞の英文で答えられるように指導する。</p> <p>②教科書を活用した指導をする。 3年間の文法に関する小テストを適宜実施する。</p> <p>③ペアでの言語活動を行い、インプット・アウトプットの強化を図る。音読テストやインタビューテストを行い、英語に関する興味関心を持たせる。</p> <p>④ペアやグループ活動など、積極的に言語活動を実施して、指導する。</p>	<p>①少人数指導中、各生徒に問題を出し、ヒントを与え、机間巡視をしながら個別に丁寧に指導していく。</p> <p>②基礎学力の定着を図る。</p> <p>③個人発表やペアでの言語活動を通じ、個々の能力の伸長を図る。</p> <p>④インタビュー活動を通じ体験したことをメモし、感想をまとめさせ、表現の能力の育成を図る。</p>